

王子・滝野川地域と渋沢栄一

渋沢栄一は、飛鳥山邸が所在した滝野川町をはじめ、王子町など地域での活動や人びととの交流も大事にしました。王子・滝野川地域と栄一との関係で、まず重要なのは抄紙会社(現在の王子製紙株式会社)の設立です。王子を同社工場地に選択したことから、栄一と王子地域との関係は始まり、飛鳥山に別荘を構えるきっかけともなりました。また栄一は、滝野川町の庁舎新築、警察署、小学校などの町行政や地域の社会事業など、地域に住む住民の1人として王子・滝野川地域の事業や活動にも関わりました。



飛鳥山邸より王子製紙会社を望む
(明治26年)

王子製紙株式会社

明治5(1872)年6月、渋沢栄一は製紙事業を官営、または政府保護のもとで行なうことを建議し、三井、小野、島田の3組に依って抄紙会社の設立願書を提出して、翌年には設立が認可されました。工場の敷地選定に際しては、栄一自身も各地を調査した後、工場用水の面から王子に決定しています。明治8(1875)年12月には開業式が執り行われ、操業を開始しました。その後、翌9(1876)年には社名を製紙会社に変更、同26(1893)年には王子製紙株式会社と改めました。王子地域と栄一との関係は、まさに同社設立から始まり、栄一は同社を近代的な機械工場の模範として広く知らしめたいと考えており、自身の思い入れも深かったようです。

西ヶ原一里塚の二本榎

大正5(1916)年、東京市が電車軌道の敷設と市区改正計画により、旧岩槻街道の日本橋から2里目にあたる西ヶ原一里塚を撤廃することを計画しました。この時に滝野川町長長野木隆歆や町民有志とともに栄一は保存を推進します。そして栄一や古河虎之助等の寄付金により、周辺の土地600坪を購入して、土地を東京府に寄付し、同地は飛鳥山公園の附属地として保存が決定されました。後にこれを記念して保存碑が建てられ、大正5年10月には碑の除幕式が行なわれました。



二本榎保存碑除幕式(大正5年10月22日)



絵はがき 西ヶ原一里塚二本榎

碑石には旧江戸城の外郭虎の門の石垣の石を使用し、碑文は文学博士三上参次の撰、書は阪正臣、題額は徳川家達によるもの。碑は現在も残され、二本榎保存の経緯を伝えている。



滝野川町役場新築地鎮祭
(大正7年12月1日)



絵はがき 滝野川町役場

滝野川町役場

渋沢栄一は滝野川町の住民として、町の事業や施設設置等に対しては寄付などを行ないました。また、大正8(1919)年の町役場新築の際には寄付金などの支援や、開庁式には出席して祝辞演説をしています。